「新時代とやまハイスクール再構築ガイドライン」（案）及び「新時代とやまハイスクール第１期設置方針」（案）に対するパブリックコメントのご意見の概要と県の考え方

※　いただいたご意見 125 件のうち、趣旨が同じご意見はまとめた上で、趣旨を踏まえて要約しています。

１.「新時代とやまハイスクール 再構築ガイドライン」（案）に関するご意見

（１）構想の方向性や考え方などへのご意見

（構想全般）

	ご意見の概要	県の考え方
1	中学校卒予定者数が減少する中、学校の合併は避けられない。地域の反対は理解できるが必要な改革は進めるべき。	科学技術やグローバル化の進展、人口減少の進行など社会が変化する中において、県立高校のあり方は、大きな変わり目を迎えています。このため、令和３年度以降、様々な方法でお聞きしてきたご意見も踏まえながら、将来の県立高校に必要と考えられる教育内容などについて議論を重ね、「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」を基本目標とする「新時代とやまハイスクール（以下「新時代ＨＳ」という。）構想」を描きました。 構想では、少子化が進む中においても、生徒に多様な選択肢を提供できるよう、それぞれ特色のある新時代ＨＳを県内にバランスよく配置し、全ての生徒にとって「学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり」を推進することとしています。 今後は、「第１期設置方針」を踏まえ、学校現場の教員を含めた新たな学校づくりの検討体制を構築し、検討を進めるとともに、「実施方針」と「再構築ガイドライン」を「羅針盤」とし、社会情勢の変化や今後の中学校卒業予定者数の状況などを踏まえながら、「こどもまんなか」の視点で構想を着実に推進してまいります。
2	生徒一人ひとりに寄り添った学びやすい理想的な学校をつくってほしい。	
3	富山の子どもたちが身につけるべき力は、富山県がどのような未来を描いているかによる。また、これまでの教育実績を踏まえた検討が必要。	
4	20 年後、30 年後の生徒数は想定を下回る可能性もあるので、柔軟性のある計画にする必要がある。	
5	教育の目標は「人材の育成」ではなく「人格の完成」であるべき。	
6	県内どこに住んでいても学びたい学校を選択できるよう学校数は減らすべきでない。	
7	学校現場や地域住民との話し合いが不足している。	
8	生徒一人ひとりに寄り添った学校づくりを進め、生徒や保護者に分かりやすく伝えてほしい。	今後、具体の学校づくりを進めるとともに、新時代ＨＳについてわかりやすく伝えることが重要であると考えています。 このため、いただいたご意見を踏まえ「再構築ガイドライン」に、「『設置方針』を取りまとめた後、第１期校の学校像をわかりやすく説明する中学生向け資料を作成し、中学生や保護者、中学校教職員に対し、高校の特色や教育内容、進路について理解を深めることができるよう、広報の充実などにより早期の情報提供に努める」ことを追記しました。
9	７つの類型は名称が分かりにくく、具体的な教育内容も分からない。	
10	７類型の学校の学科構成や配置がどのようになるのかわからない。	
11	学校数を減らすのではなく、少人数学級を検討すべき。	本県では、少人数学級と少人数指導による効果的な少人数教育の実施を基本的な考え方としてきています。少人数学級については、学科等の特殊性を踏まえ、農業科などの職業科やコース等で導入しており、また、多くの高校では選択授業や習熟度別学習で実質的な少人数指導を行っています。１学級の定員については、国の標準法に定められた定員が基本になるため、少人数学級の採用については、まずは国による定数改善が必要であると考えており、引き続き国に対し要望してまいります。
12	定時制高校を除外しているのはなぜか。未来探求ハイスクールのタイプ２(なりたい自分を見つけることができる学校)は、定時制も移行できるのではないか。	「定時制・通信制高校」については、多様な生徒に対応した教育を確保する観点から、現在の配置を維持することを基本としつつ、今後の新時代ＨＳの検討の中で、その位置づけや全日制高校との関係について整理しながら、必要な検討を進めてまいります。

（中高一貫教育校）

	ご意見の概要	県の考え方
1	中高一貫教育校を増やすべき。	「新時代とやまＨＳ構想」実施方針では、これからの社会を創造できる人材を育成する「ＳＴＥＡＭ」について、継続的かつ計画的に学ぶ「併設型」の中高一貫教育校１校を、第２期に、県西部を基本として設置を目指すとしています。 このため、まずは県西部への１校の設置に向け、検討を加速するとともに、設置後にその成果と課題を整理のうえ、必要に応じてその後の検討も行ってまいります。
2	早期の受験競争が危惧されるため慎重に検討すべき。	文部科学省の公立の中高一貫教育校が受験競争の低年齢化を生じさせないようにという観点から、多くの公立中高一貫教育校では、面接や思考力を問うような適性検査が実施されています。今後、市町村教育委員会など関係機関のご意見もお聞きしながら、丁寧に検討を進めてまいります。
3	教員配置や施設設備はどのように対応するのか。	今後、現場教員や関係機関なども交えた検討体制のもと、教育内容など具体化の議論を加速してまいります。

（大規模校）

	ご意見の概要	県の考え方
1	大規模校のメリットなど具体像が分かりにくい。	大規模校は、多くの科目や部活動から選択が可能で、多様な考え方に接することにより、他者と協働して社会参画できる力を高めることをねらいとして設置することとしています。 今後、大規模校の具体的な検討を行うため、いただいたご意見を踏まえ、「再構築ガイドライン」に、「学校規模や整備方法については、今後の中長期的な生徒数の見通しや生徒のニーズなどを踏まえ、①大規模校の設置による県全体の学校配置への影響や施設設備などの費用対効果を整理しながら、②大規模校のねらいをどのように実現していくかを具体的に検討する必要がある」と追記しました。 今後、８～12 学級による選択科目の開設可能数や、整備方法の「新築」、「一部改築」、「増築」などを比較衡量しながら検討を深め、令和９年度中を目途に「整備構想」を取りまとめることとしています。
2	「総合選択制」は広く浅く学ぶことになり、卒業時に何も残らないのではないか。	
3	一人ひとりの生徒に寄り添う機会が減り、取り残される生徒が出るのではないか。	
4	人口規模や文化施設・学習環境の違う埼玉県の大規模校をモデルとすることに問題はないのか。	
5	教員間の意思疎通、生徒指導、保護者対応などの負担が増加するのではないか。	
6	大規模校の学科構成や学系のイメージが分からない。また、その教育内容を大規模校で実施するだけのニーズはあるのか。	
7	新築すると 160 億円となっているが、今ある学校の施設設備や教員配置、教員の待遇改善などに充てるべき。	
8	大規模校を設置するのではなく、地域の小規模校を残すべき。	
9	全県から呉羽高校への通学は現実的ではなく、交通機関の輸送力にも限界がある。	新時代ＨＳ構想「実施方針」では県全域からの通学を考慮し、公共交通機関の利便性の高い富山市内の県有地（県立高校敷地など）を活用して整備するとしたところであり、「新時代ＨＳ構想検討会議」において検討した結果、現在の「呉羽高校敷地」を活用することとしました。

（２）構想を具体的に進める際に考慮すべきご意見

（構想全般）

	ご意見の概要	県の考え方
1	県立高校を取り巻く環境は大きく変化しており、構想に縛られた議論は、将来の教育環境に応じた教育の足かせになる。	構想では、将来あるべき姿を描いたうえで、そこからバックキャスティングの考えで各期の姿を描き、段階的に再編等を行うこととしました。今後、各期における検討にあたっては、「実施方針」と「再構築ガイドライン」を羅針盤として、社会情勢の変化や今後の中学校卒業予定者数の状況を踏まえ検討してまいります。
2	これまでの各校の教育実績を尊重し、新しい学校づくりを進めることが大切。閉校ではなく統合とするべき。	これまでの各校における教育実績を尊重することは大切であると考えています。 このため、いただいたご意見を踏まえ「再構築ガイドライン」に、「これまで各校で行われてきた学習活動や特色ある取組み、部活動などを新時代ＨＳに引き継ぐとともに、将来を見据えた新たな取組みを加え再構築する」ことを追記しました。
3	誰もが最寄りの高校で大学進学を目指すよう学力別に学級編制を行い、競争心を育むべき。	現在も、県立高校では高等教育機関への進学を含め、生徒の様々な進路希望に対応できるよう教育活動に取り組んでいます。新時代ＨＳにおいても、生徒の多様な学習ニーズに対応できるよう努めてまいります。
4	普通科以外の学科を増やしてほしい。	新時代ＨＳでは、普通系学科の教育内容は、「スタンダード」をすべてに共通する教育の基本と位置づけ、「ＳＴＥＡＭ」、「グローバル」、「エンパワーメント」など特色ある教育内容で構成することとしています。 今後の普通系学科の配置については、少子化が進む中においても、生徒に多様な選択肢を提供できるよう、それぞれ特色ある新時代ＨＳを県内にバランスよく配置できるよう検討いたします。
5	大学科「家庭」はどこに設置されるのか。	職業系専門学科については、産業界や生徒のニーズを踏まえ、①職業系専門学科からなる学校、②普通系学科と併設する職業系専門学科を開設、③普通系学科・総合学科のコースや選択科目を開設の方向性で検討することとしています。
6	本校とサテライトキャンパスの関係はどうなるのか。	地域特有の教育環境を実践し、地元自治体と連携しながら地域の活性化に取り組む場合、実習施設の有効活用を図る場合などに、中規模校の機能分担を検討することとしています。その際、本校とサテライトキャンパスの関係についても検討することとなります。
7	アンケート結果で多かった「選択できる学校」を目指すのであれば、地域に学びの場を残し、生徒一人ひとりの興味関心や進路希望に応じた科目選択が可能な教育課程の編成と教員配置を目指すべき。	生徒一人ひとりの興味関心や進路希望に応じた多様な科目を開設するためには、その科目を選択する生徒と担当する教員の数が必要になるため、一定程度の学校規模を確保する必要があると考えています。
8	新しい学校づくりには、教員確保や働き方改革の視点が必要。	構想では、生徒により良い教育を提供できるよう、教員の「働きやすさ」と「働きがい」を両立させ、ウェルビーイングの向上を図るとともに、教員確保のための環境整備を推進することとしています。
9	部活動を理由とした県外進学が増加しているため、部活動で生徒を集める学校があるとよい。そのためには、高い専門性を持つ教員の確保・育成や外聞人材の活用、地域クラブとの連携も検討する必要がある。	第１期に設置する「未来探求 HS」や第３期に設置する大規模校である「総合選択 HS」において、スポーツなどの選択科目の開設や部活動の充実を図りたいと考えています。例えば、「未来探求ＨＳ（タイプ１得意を生かせる学校）」において、スポーツや文化・芸術など専門的な学びや部活動などに「夢中になれる時間」の拡充を図ることとしています。今後、現場教員と共に、施設設備や指導者の確保など取組みを進めてまいります。

10	新時代ＨＳにおける外部人材の活用に、県の「パスネットとやま」を活用してはどうか。	活力ある新時代ＨＳの実現に向け、現場教員の意見を聞きながら、民間人材の活用や地域の企業・高等教育機関など外部との連携強化に加え、教育効果を高める学校の組織や運営について検討し、可能なものから速やかに実施することとしています。いただいたご意見も踏まえ、今後、検討してまいります。
11	中学生の進路選択には、中学校の進路指導が重要。これまでの高校のイメージ、校風、入試の偏差値といったものから脱却する必要があり、入試改革も必要。	今後、具体の学校づくりを進めるとともに、新時代ＨＳについてわかりやすく伝えることが重要であると考えています。 このため、いただいたご意見を踏まえ「再構築ガイドライン」に、「『設置方針』を取りまとめた後、第１期校の学校像をわかりやすく説明する中学生向け資料を作成し、中学生や保護者、中学校教職員に対し、高校の特色や教育内容、進路について理解を深めることができるよう、広報の充実などにより早期の情報提供に努める」ことを追記しました。入試改革についても実施方針を踏まえ検討してまいります。
12	学校の特色化・魅力化を図り、ＳＮＳの活用やオープンハイスクールを複数回開催するなどし、情報発信すべき。	
13	新時代ＨＳでは、私服を導入してほしい。	今後とも、学校現場と連携しながら教育効果を高める学校組織や運営、教育環境について検討してまいります。
14	制服の見直しについて、流行に乗るだけでなく、ジェンダー配慮に前向きな姿勢を見せてほしい。	
15	現在学ぶ生徒のために施設設備の改修などを行うべき。	

（中高一貫教育校）

	ご意見の概要	県の考え方
1	特色を出すために「自校作成問題」を導入してはどうか。	文部科学省の公立中高一貫教育に係る通知等を踏まえ、探究活動に対する意欲、思考力・表現力、協働する力などから総合的に評価することができるよう、今後、小学校・中学校・高校等の関係者と協議しながら検討を進めてまいります。

（大規模校）

	ご意見の概要	県の考え方
1	１学年 12 学級は学校規模が大きすぎて学校運営や施設設備の面で課題がある。	大規模校は、多くの科目や部活動から選択が可能で、多様な考え方に接することにより、他者と協働して社会参画できる力を高めることをねらいとして設置することとしています。 今後、大規模校の学校規模や整備方法について検討していく必要があることから、いただいたご意見を踏まえ、「再構築ガイドライン」に「学校規模や整備方法については、今後の中長期的な生徒数の見通しや生徒のニーズなどを踏まえ、①大規模校の設置による県全体の学校配置への影響や施設設備などの費用対効果を整理しながら、②大規模校のねらいをどのように実現していくかを具体的に検討する必要がある」と追記しました。 今後、８～12 学級による選択科目の開設可能数や、整備方法の「新築」、「一部改築」、「増築」などを比較衡量しながら検討を深め令和９年度中を目途に「整備構想」を取りまとめることとしています。 具体的な教育環境の充実や交通対策については、関係機関と連携しながら検討を進めてまいります。
2	かつて学校の適正規模は４～８学級とされていた。最大でも８学級以下にするべき。	
3	将来的に 12 学級を維持できるのか。定員が埋まらないということがないように生徒や保護者のニーズを十分に調査する必要がある。	
4	大規模校の多展開授業をはじめ、学校行事、生徒指導、保護者対応などの負担増が懸念される。対応するための教員を配置できるのか。	
5	呉羽高校はグラウンドの水はけ、周辺の交通事情、あいの風とやま鉄道の輸送能力などに懸念がある。	

２.「新時代とやまハイスクール　第１期設置方針」（案）に関するご意見

（１）第１期校の方向性や考え方などへのご意見

（構想全般）

	ご意見の概要	県の考え方
1	従来の県立高校のイメージから脱却する計画となっており、単なる数合わせの再編計画ではないと思う。	引き続き、様々なご意見をお聞きしながら「こどもなんなか」」の視点で、生徒が「学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり」に努めてまいります。

（グローバルＨＳ）

	ご意見の概要	県の考え方
1	富山高校の校舎・敷地を活用する理由が明確でない。	グローバルＨＳは当面の間、県内に１校の設置となることから全県からの通学の利便性を考慮するとともに、発展的な探究活動に活用できる設備や施設整備の観点を含めて検討しました。
2	１学年全員に英語学習や国際教育を提供する案となっているが、英語力や探究活動への意欲・適応力には個人差があるため、適性のある生徒に十分な対応ができないのではないか。	今後、関係する高校の校長などを加え、学科構成や教育内容など具体の議論を加速し、学校の骨格作りに向けた検討を進めてまいります。
3	英語で授業を行うことは必要か。また「探究×生成ＡＩ」を誰が教えるのか。	
4	国際バカロレア認定校は税金の無駄。	グローバルＨＳの取組みを検証しながら、認定校のニーズや効果を整理し、導入の必要性等の議論を重ねてまいります。

（未来探求ＨＳ）

	ご意見の概要	県の考え方
1	「余白の時間」を使って部活動に時間を割く必要があるのか疑問。一般教科・科目を学びそこなうことになってしまう。	「余白の時間」は、部活動だけではなく、生徒一人ひとりの興味関心や進路希望に応じて、主体的に学びを深めるための時間として位置付けています。一般教科・科目の学習を十分に確保することを基本としながら、探究活動や資格取得、部活動など、多様な学びや経験につなげられるよう、具体的な活用方法を検討してまいります。 こうした新時代ＨＳでの先導的な取組みは、必要に応じて、他の県立高校や新時代ＨＳへも横展開できるよう努めてまいります。
2	「余白の時間」はこれまでの教員の授業への考え方を転換させるよい機会。他のタイプの新時代ＨＳにも導入するべき。	
3	「なりたい自分を見つけることができる学校」はどの学校にも必要な目標。県民を納得させるためのスローガンに思える。	「なりたい自分を見つけることができる学校」は、すべての学校に共通する大切な目標であると認識しています。本構想では、生徒が自らの興味関心や適性を見いだし、将来の目標につなげることができるよう、教育内容や学習環境の具体化を進めていきます。

（２）第１期校の「設置計画」を検討していく際に考慮すべきご意見

（設置計画全般）

	ご意見の概要	県の考え方
1	数合わせではなく、教育内容から検討したとあるが学科構成が全く分からない。	今後、プロジェクトチームを設置し、学校ごとに学校規模、学科構成、学科ごとの主な教育内容などについて検討を進め、令和９年度中を目途に「設置計画」を取りまとめるとともに、県民の皆様には、適時適切にお伝えしてまいります。
2	特色ある学校ができても遠くて通えない生徒や、学校数が減ることで通学時間が長くなる生徒が出てくるのではないか。	第１期は、これまでにない特色ある学校となることから、より多くの生徒が通学できるよう、県中央部の４エリアに設置することとしました。また、グローバルハイスクールは当面の間、県内に１校の設置となることから全県からの通学の利便性を考慮し、富山高校校舎・敷地を活用して設置することとしました。
3	施設設備は、学習内容と同じくらい魅力向上策として必要。多くの県立高校で校舎が老朽化しているので、改修等を行ってほしい。	県立高校の施設整備については、新時代ＨＳとの整合性を図りながら計画的に進めることを基本とし、緊急性が高いものは柔軟に対応してまいります。 また、今後、第１期校の学科構成や教育課程等を具体化し「設置計画」を取りまとめることとしており、新たな学びに必要な施設設備についてどのような対応が必要かについても検討してまいります。
4	大規模校の新築には反対しないが、今後開設される新時代ＨＳも校舎の修繕を進めてほしい。	

（グローバルＨＳ）

	ご意見の概要	県の考え方
1	きめ細かな指導が必要であることを考えると、コース定員 80 人は多く感じる。	今後、現場の教員とともに、学科構成や教育内容など具体の議論を加速し、学校の骨格作りに向けた検討を進め令和９年度中を目途に「設置計画」を取りまとめるとともに、グローバルＨＳについてわかりやすく伝えることが重要であると考えています。 このため、いただいたご意見を踏まえ「再構築ガイドライン」に、「『設置方針』を取りまとめた後、第１期校の学校像をわかりやすく説明する中学生向け資料を作成し、中学生や保護者、中学校教職員に対し、高校の特色や教育内容、進路について理解を深めることができるよう、広報の充実などにより早期の情報提供に努める」ことを追記しました。
2	専門学科でなく、普通科コースにした場合教員配置数が減ることが懸念される。	
3	普通科コースとして開設するのであれば推薦入学者選抜を実施し、興味関心の高い生徒を確保してほしい。	
4	学力競争が激化することや海外研修の費用負担などの面から経済力のある家庭が有利になるのではないか。	
5	グローバル教育に対応できる教員の確保が必要。英語で授業できる教員の確保などに向け、外国人の採用や教員採用試験の見直しを行うべき。	
6	企業や大学、海外と学校をつなぐコーディネーターが必要。	
7	海外大学進学に必要となる英語レベルを習得できる教育課程が必要。	
8	人文・外国語系だけでなく、理工系・技術者を目指す海外進学も視野に入れてほしい。	
9	海外大学を目指すメリットを生徒・保護者に示す必要がある。	
10	国の各種事業や補助金・支援制度を活用してはどうか。	国においては、令和７年度補正予算による基金事業に加え、今後、新たな交付金を創設し、全国の高校教育改革を支援することとしています。こうした国の支援も活用しながら新時代ＨＳにおいて提供する教育内容に照らし合わせ検討し、よりよい教育環境を整備してまいります。

（未来探求ＨＳ）

	ご意見の概要	県の考え方
1	未来探求ＨＳにどのような学科ができるのかわからない。	今後、現場の教員と共に、学科構成や教育内容など具体の議論を加速し、学校の骨格作りに向けた検討を進めるとともに、県民の皆様に適時適切にお伝えしてまいります。
2	総合学科や履修単に数を 74 単位とした場合、現在、職業系専門学科で行っている実習や資格取得ができなくなる。	「余白の時間」については、生徒が興味関心や進路希望に応じて、学校内での授業、部活動、学校外での学修など、多様な学びを選択できるようにすることを想定しており、これまで職業系専門学科で実施してきた実習や資格取得に対する取組みにおいても、活用できると考えています。
3	職業系専門学科での実習、資格取得などは「余白の時間」を活用することができるのではないか。	
4	職業系専門学科をなくすと、教員や実習助手が減る。	子どもの数が減り続ける状況下においては、高校の再構築は必要不可欠であり、職業系専門学科においても社会情勢の変化や国の高校改革の方向性などに応じて必要な場合は見直しを行っていく必要があります。総合学科への改編やその他の学科を併設した学校としての再構築も検討してまいります。
5	外国人生徒の入学後の学習指導体制や生活支援体制の検討が必要。	生徒一人ひとりに応じた教育の充実に向け、第１期では、誰一人取り残されない教育の実現を図る学校を設置することとしました。 また、他県では、入学後の教育課程について、生徒の日本語レベルや母語に応じた科目を設定し、日本語指導担当教員や非常勤講師を特別に配置している事例があることから、今後導入も含めて検討してまいります。 今後、日本語指導の必要な外国人生徒に対する学力検査の手法や入学後の教育課程、日本語指導体制について、本県の外国人生徒の現状やニーズを踏まえ、他都道府県の事例も参考として、速やかに具体的な検討を進めてまいります。
6	「外国人生徒に係る特別入学枠」の選考基準などについて検討が必要。	
7	各学校にすべての部活動を設置するのではなく、それぞれ重点をおく部活動を設置し、専門教員や経験者を配置するべき。	近年、部活動を理由とした県外高校への進学が増加していることから、スポーツや職業系専門科目等から学習内容を選択でき、部活動の充実も図る未来探求ＨＳ（タイプ１）を設置することとしました。 今後、現場の教員と共に、学科構成や教育内容など具体の議論を加速し、学校の骨格作りに向けた検討を進めることとしており、どのような部活動を設置するかや指導体制についても検討してまいります。

（3）県立高校として使用しなくなる校舎・敷地について

	ご意見の概要	県の考え方
1	なぜ普通科の３校を閉校とするのか。高岡地区の普通科割合が下がれば、普通科で学ぶ機会を奪うことになる。	「将来どのような高校が必要なのか」という視点で検討を進め、少子化が進む中においても、生徒に多様な選択肢を提供できるよう、全県的な視野に立ち、それぞれ特色ある新時代ＨＳを県内にバランスよく配置することが、県の責務であると考えています。
2	地方創生の観点、地域の文化や伝統という観点から若者が集う地域の高校は残すべき。	
3	閉校後における学校文化等の継承の観点がない。閉校ではなく統合先を明確にするべき。	これまで各校で行われてきた学習活動や特色ある取組み、部活動などを新時代ＨＳに引き継ぐとともに、将来を見据えた新たな取組みを加え再構築してまいります。
4	閉校対象校についてどのような事業を展開するのか。	
5	伏木高校の国際交流の学びはクルーズ船が寄港する場で学びが深まる。学習する場所が変われば、その意義や意欲が減衰するのではないか。	
6	閉校となる学校の教育環境の維持として、校舎の改修等は考慮されるのか。	在籍する生徒の学習環境を維持・充実することは大切であると考えています。 このため、いただいたご意見を踏まえ、「再構築ガイドライン」に「在籍する生徒が卒業するまでの間、充実した学校生活を送ることができる学習環境とするため、教員の確保や学校外との連携を支援する。また、部活動の充実に必要な支援についても学校現場の意見を聞きながら検討し、対応する」と追記しました。
7	閉校となる学校の校舎を活用する方向で跡地活用を検討してほしい。	県立高校として使用しなくなる校舎・敷地の活用方法については、地元市町村のご意見を伺い、それぞれの地域の実情や地域住民の皆様の声を踏まえながら、地域振興に資する活用となるよう、県が主体的に、地元市町村や関係者と丁寧に協議しながら検討してまいります。
8	旧校舎の管理運営に同窓会や地元の方に携わっていただいてはどうか。	